2025年３月期　決算説明会用資料

2025年5月27日

レオン自動機株式会社
RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.
証券コード（6272）

レオン自動機株式会社　社長の小林でございます。

「2025年 3月期 の決算説明会」を
始めさせていただきます。

◆ 目　次

1.　2024年度 連結決算概況

2.　2025年度 連結業績予想

3.　中期経営計画　進捗状況
（2023-2027年度）

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

本日は、ご覧の順番で進めてまいります。
どうぞよろしくお願いいたします。

◆ 目　次

1.　2024年度 連結決算概況

2.　2025年度 連結業績予想

3.　中期経営計画　進捗状況
（2023-2027年度）

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

それでは、「 2024 年度の連結決算概況 」について
ご説明いたします。

◆ 連結計算書サマリー

（百万円）	2023年度 実績	2024年度計画 （2024年5月14日）	2024年度 実績	増減額	増減率 （%）
売上高	37,703	38,950	39,214	1,511	4.0 %
営業利益	4,883	5,380	5,298	415	8.5 %
経常利益	4,987	5,450	5,415	428	8.6 %
親会社株主に帰属する当期純利益	3,675	3,750	3,889	214	5.8 %
ROE	10.9 %	–	10.4 %	▲0.5 %	–
EPS	136.96 円	139.75 円	144.74 円	7.78 円	–
配当	42.00 円	42.00 円	44.00 円	2.00 円	–
期中平均為替レート	USドル＝144.62 円 ユーロ＝ 156.80 円	USドル＝145.00 円 ユーロ＝ 155.00 円	USドル＝152.58 円 ユーロ＝ 163.75 円	–	–

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

2024 年度は、

売上高　　３９２億１千万円、

営業利益　　５２億９千万円、

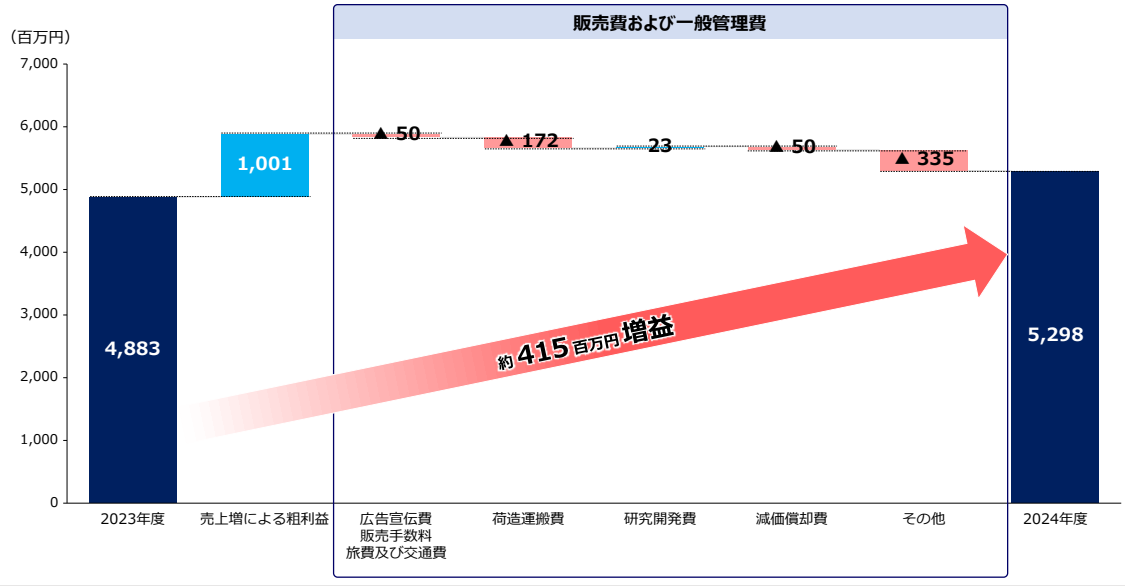
経常利益　　５４億１千万円、

当期純利益　　３８億８千万円　となりました。

前年比では、売上高は ４％の増収、

営業利益は ８.５％の増益となりました。

◆ 営業利益増減



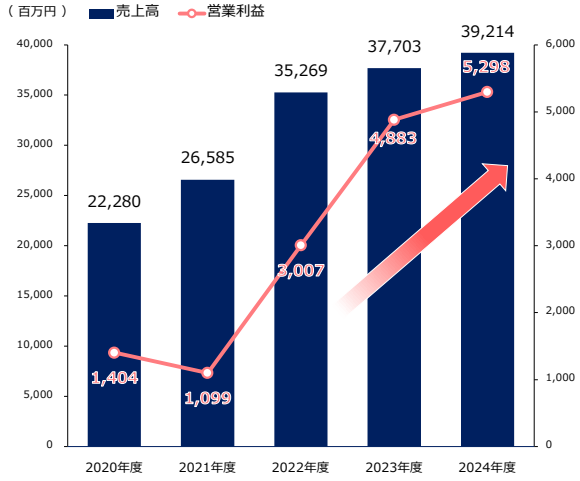
© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

このチャートは、営業利益の増減要因を表したものです。

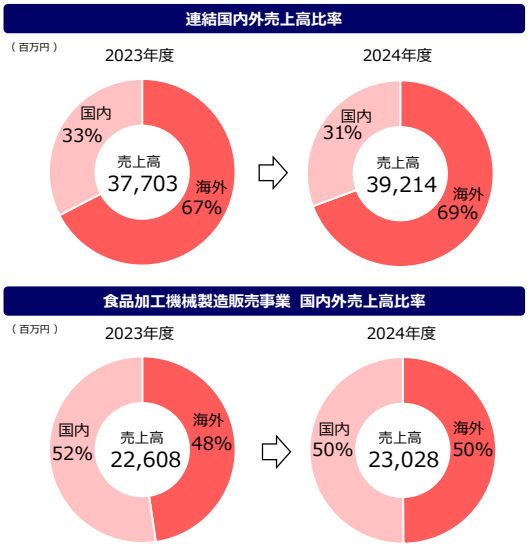
左側の、４８億８千万円　が、前年度の実績、
右側の、５２億９千万円　が、2024 年度の実績です。

販売手数料や荷造運搬費などの販売管理費は増加しましたが、
売上増加により、
営業利益は、４億１千万円の増加となりました。

◆ 過去５年の業績推移



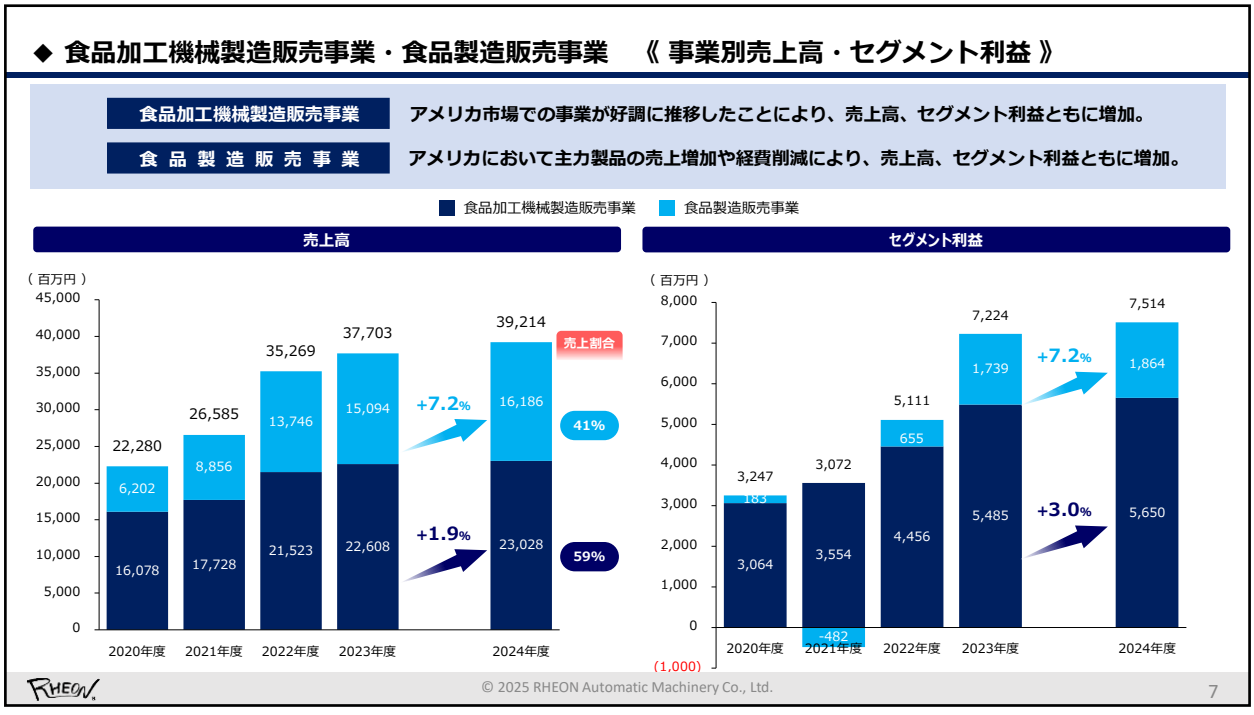
USドル	106.06 円	112.38 円	135.47 円	144.62 円	152.58 円
ユーロ	123.70 円	130.56 円	140.96 円	156.80 円	163.75 円



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

過去５年間における業績推移のグラフと国内外の売上高比率をグラフにしました。

各国の設備投資の需要回復が継続したことや、為替の円安が追い風となったこともあり、売上高、営業利益とも過去５年において最も高い結果となりました。



次に、事業別売上高とセグメント利益です。

「 食品機械事業 」は、前年度比で、
売上高が　１．９％　増加し、
セグメント利益も　３％　増加となりました。

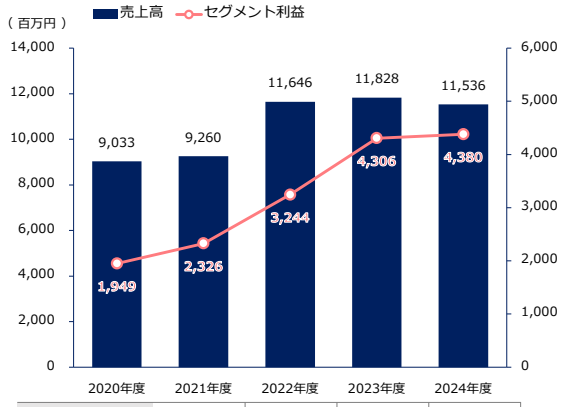
「 食品事業 」においては、
売上高が　７．２％　増加し、
セグメント利益も　７．２％　増加となりました。

「 食品機械事業 」「 食品事業 」ともに、
アメリカ市場での事業が好調に推移したことにより、
売上、収益ともに大きく貢献しました。

◆ 食品加工機械製造販売事業　日本《 過去５年　売上高・セグメント利益/売上高内訳 》

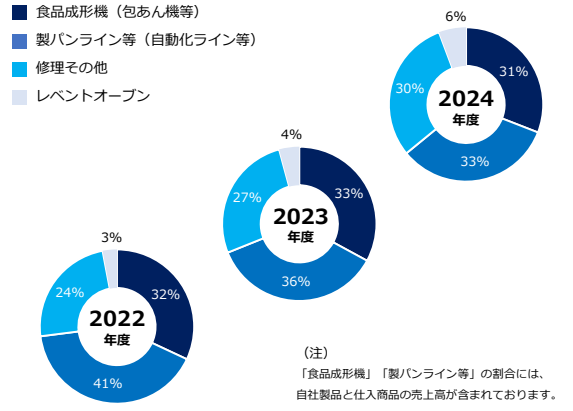
- 大手製菓・製パンメーカーからの買替需要による設備更新や新規投資が見られたものの売上は減少。
- 包あん機など単体機の販売は減少したが、部品及び修理の販売は増加。

売上高･セグメント利益



売上高 対前年増減率	+2.5 %	+25.8 %	+1.6 %	-2.5 %

売上高内訳



（注）
「食品成形機」「製パンライン等」の割合には、
自社製品と仕入商品の売上高が含まれております。

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

地域別の状況について、もう少し詳しくご説明いたします。

<u>国内市場</u>では、
大手製菓・製パンメーカーからの買替需要や新規投資が
見られたものの、ターンキー受注が減少したことにより、
売上は２．５％減少しました。

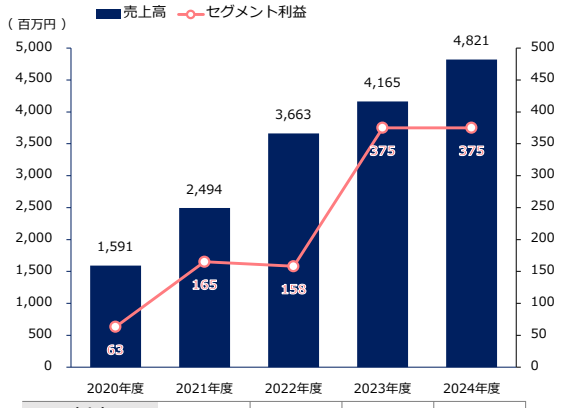
機種構成別では、大型自動化ライン及び包あん機などの単体機が
減少し、修理その他が増加しました。

なお、セグメント利益は１．７％増加しました。

◆ 食品加工機械製造販売事業　北米・南米《 過去５年　売上高・セグメント利益/売上高内訳 》

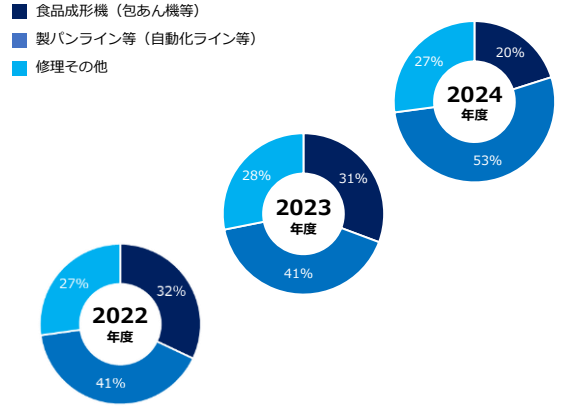
- 製パンラインにおいては、アルチザンブレッド生産ラインの販売が好調で売上が増加。
- 食品成形機の売上は減少したが、修理その他の売上は増加。

売上高･セグメント利益



売上高 対前年増減率	+56.8 %	+46.8 %	+13.7 %	+15.8 %

売上高内訳



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

アメリカ市場では、
売上は、現地通貨ベースで９．７％、
円ベースで１５．８％、ともに増加しました。

緩やかな物価上昇はありましたが、依然として
労働者不足や生産の合理化需要が継続しております。

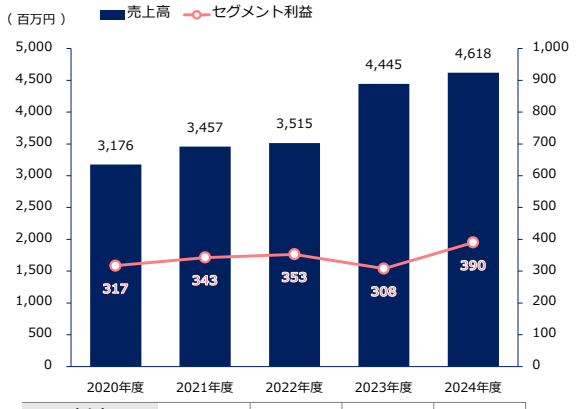
製パンラインにおいては、アルチザンブレッドの本物志向が高まり、
販売が順調に伸びました。

また、修理その他の売上は増加しましたが、
包あん機の売上が減少したことにより、
セグメント利益は、円ベースで若干の増加にとどまりました。

◆ 食品加工機械製造販売事業　ヨーロッパ《 過去５年　売上高・セグメント利益/売上高内訳 》

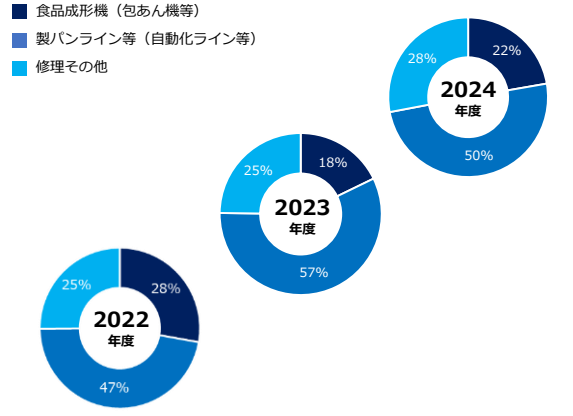
- 製パンラインは主力製品である小型製パン機の販売が好調だったものの、大型ラインの販売が伸び悩み、売上が減少。
- 食品成形機は菓子・調理製品・健康食品など各市場向けに売上が増加。

売上高･セグメント利益



売上高 対前年増減率	+8.8 %	+1.7 %	+26.5 %	+3.9 %

売上高内訳



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

<u>ヨーロッパ市場</u>では、
売上は、現地通貨ベースで０．５％とわずかに減少しましたが、
円ベースでは円安の影響もあり、３．９％増加しました。

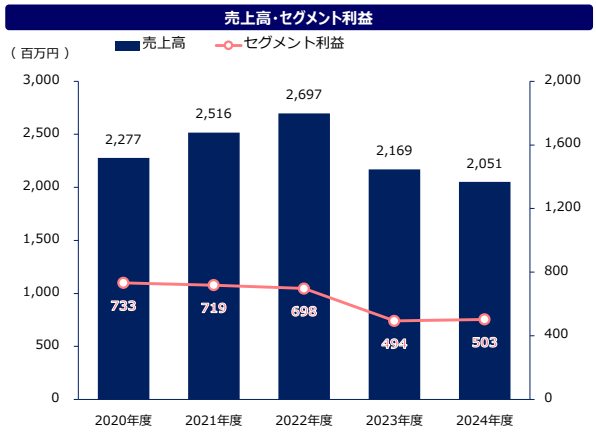
製パンラインは、主力製品である小型製パン機の販売が好調だったものの、
大型ラインの販売が伸び悩み、売上が減少しました。

包あん機などの食品成形機は、
菓子や調理、健康食品など幅広い市場向けに販売が好調に推移し、
売上が増加しました。

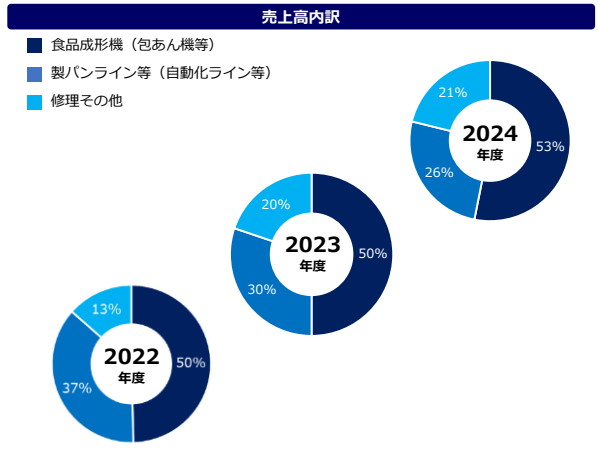
なお、セグメント利益は、
大型展示会の開催がなく、広告宣伝費の減少により
２６．４％増加しました。

◆ 食品加工機械製造販売事業　アジア《 過去５年　売上高・セグメント利益/売上高内訳 》

- 台湾や韓国、東南アジアでは製パンライン、食品成形機ともに販売は順調に推移したものの、中国の景気回復が遅れたことにより売上が減少。



売上高 対前年増減率	+10.5 %	+7.2 %	-19.6 %	-5.4 %



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

アジア市場について説明いたします。

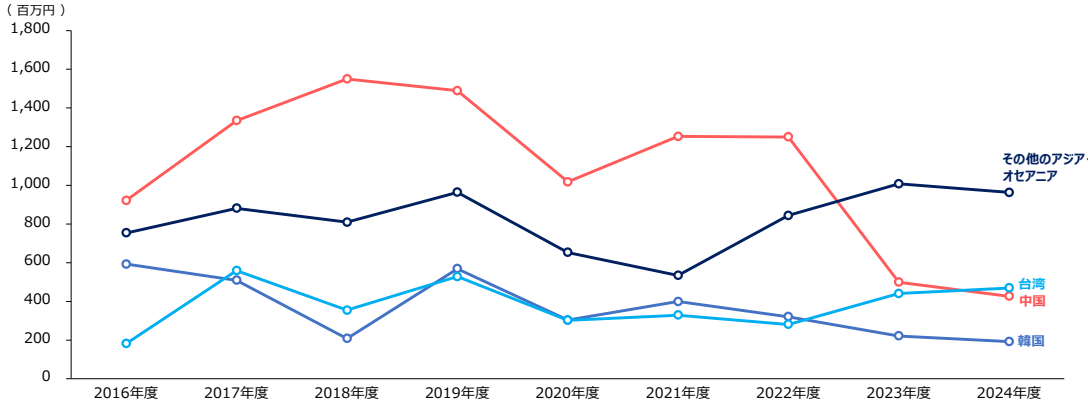
アジア市場は中国の景気回復が遅れたことにより販売が伸び悩み、
売上は５．４％減少しました。

製パンラインは
台湾や東南アジア向けに販売が増加しましたが、
中国での販売が伸び悩み、売上は減少しました。

包あん機などの単体機においては、
中国での販売は低調だったものの、台湾やタイ、インドネシアなどの
月餅市場向けで売上が増加しました。

セグメント利益は
修理その他の販売が堅調で、１．８％増加しました。

◆ アジア国別 売上高推移



	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
中国（香港含む）	922	1,335	1,550	1,489	1,018	1,253	1,250	499	426
韓国	593	509	208	569	303	399	320	221	192
台湾	182	559	354	528	302	329	281	440	469
その他 アジア・オセアニア	754	881	809	964	653	534	844	1,008	963

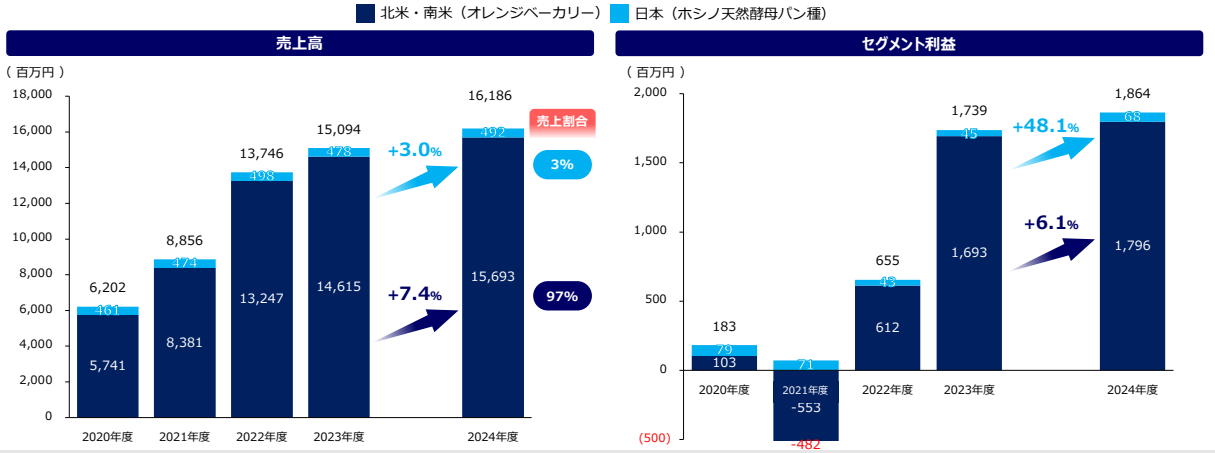
© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

地域別に見ますと、
アジア全体における中国・台湾・韓国の売上は
５３％で、前年度と同水準となりました。

その他の地域ですが、東南アジア地区では
ベトナム、シンガポール、インドネシアで設備投資や更新が
活発に行われ、売上が増加しました。
オセアニア地区もアルチザンブレッド市場に小型製パン機の
売上が順調に推移しております。

◆ 食品製造販売事業　《 地域別売上高・セグメント利益 》

売　上　高	● 北米・南米	既存大手顧客への主力製品の販売が増加し売上が増加。
	● 日本	アジア向けパン種の販売が好調を維持し売上が増加。
セグメント利益	● 北米・南米	原材料費や輸送費などのコストダウンを継続し利益が増加。
	● 日本	原材料費や製造工程の見直しなどにより利益が増加。



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

次に「 **食品事業** 」の状況です。

アメリカのオレンジベーカリーは、
既存大手顧客への主力製品の販売が増加し、
売上は、現地通貨ベースで１．８％、円ベースで７．４％
増加しました。
セグメント利益は、
原材料費や輸送費のコストダウンを継続したことにより、
現地通貨ベースで０．６％、円ベースで６．１％
増加しました。

国内のホシノ天然酵母パン種につきましては、
アジア向けパン種の販売活動強化や製造工程の見直しにより
売上、セグメント利益ともに増加しました。

◆ 連結貸借対照表サマリー

（百万円）	2023年度 金額	2023年度 構成比（%）	2024年度 金額	2024年度 構成比（%）	2024年度 増減額	2024年度 増減率（%）	2024年度 主な増減要因
資産合計	44,574	100 %	49,242	100 %	4,668	10.5 %	–
流動資産	25,404	57.0 %	29,073	59.0 %	3,669	14.4 %	● 現金及び預金の増加 ● 受取手形及び売掛金の増加　など
固定資産	19,170	43.0 %	20,168	41.0 %	998	5.2 %	● 有形固定資産の増加 ● 投資有価証券の増加　など
負債合計	8,690	19.5 %	10,527	21.4 %	1,837	21.1 %	–
流動負債	6,744	15.1 %	8,867	18.0 %	2,123	31.5 %	● 前受金の増加 ● 未払法人税等の増加　など
固定負債	1,946	4.4 %	1,660	3.4 %	▲286	▲14.7 %	● 長期借入金の減少 ● 繰延税金負債の減少　など
純資産合計	35,884	80.5 %	38,715	78.6 %	2,831	7.9 %	● 利益剰余金の増加 ● 有価証券評価差額金の増加　など
負債純資産合計	44,574	100 %	49,242	100 %	4,668	10.5 %	–

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

賃借対照表サマリーについて、主なポイントをご説明いたします。

流動資産は、売上が増加したことにより現金及び預金、売掛金が増加しました。

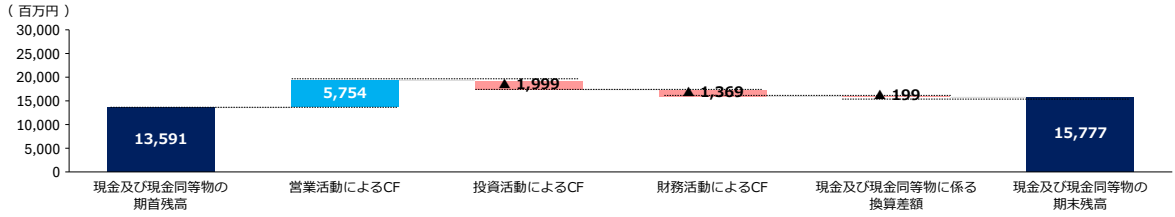
固定資産は、有形固定資産および投資有価証券が増加しました。

流動負債は、前受金および未払法人税等が増加しました。

固定負債は長期借入金や繰延税金負債が減少しました。

純資産は利益剰余金等の増加により、対前年比で７．９％の増加となりました。

◆ 連結キャッシュ・フローサマリー



（百万円）	2023年度	2024年度	主な増減要因
現金及び現金同等物の期首残高	11,440	13,591	－
営業活動によるCF	4,591	5,754	● 税金等調整前当期純利益 5,311 ● 減価償却費 1,485 ● 仕入債務の増加 144
投資活動によるCF	▲1,456	▲1,999	● 有形固定資産の取得 ▲1,713 ● 無形固定資産の取得 ▲270
財務活動によるCF	▲1,372	▲1,369	● 長期借入れによる収入 160 ● 長期借入金の返済 ▲330 ● 配当金の支払額 ▲1,152
現金及び現金同等物に係る換算差額	389	▲199	－
現金及び現金同等物の増減額	2,151	2,186	－
現金及び現金同等物の期末残高	13,591	15,777	－

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

キャッシュ・フロー・サマリーです。

現金及び現金同等物の期首残高は

１３５億９千万円でしたが、

期末残高は、

営業活動で得られた資金により、

１５７億７千万円となりました。

◆ 目　次

1.　2024年度 連結決算概況

2.　2025年度 連結業績予想

3.　中期経営計画　進捗状況
（2023-2027年度）

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

次に、「 2025 年度 通期連結業績予想 」について
ご説明いたします。

◆ 2025年度　連結業績予想

● インバウンド観光客の増加や設備投資の需要回復が見られるものの、為替相場の不安定な状況やアメリカの関税政策の影響など、依然として先行き不透明感が強い。

（百万円）	2024年度実績	2025年度予想	増減額	増減率（%）
売上高	39,214	39,160	▲54	▲0.1 %
売上原価	21,420	21,690	270	1.3 %
販管費	12,495	12,730	235	1.9 %
営業利益	5,298	4,740	▲558	▲10.5 %
経常利益	5,415	4,600	▲815	▲15.1 %
親会社株主に帰属する当期純利益	3,889	3,200	▲689	▲17.7 %
期中平均為替レート	USドル＝152.58円 ユーロ＝ 163.75円	–	–	–
想定為替レート	–	USドル＝140.00円 ユーロ＝ 158.00円	–	–

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

2025 年度の計画は、

売上高　　３９１億６千万円、

営業利益　　４７億４千万円、

経常利益　　４６億 円、

当期純利益　　３２億 円　と

減収減益の予想としております。

食品業界を取り巻く環境は、インバウンド観光客の増加や設備投資の需要回復が見られるものの、為替相場の不安定な状況や、

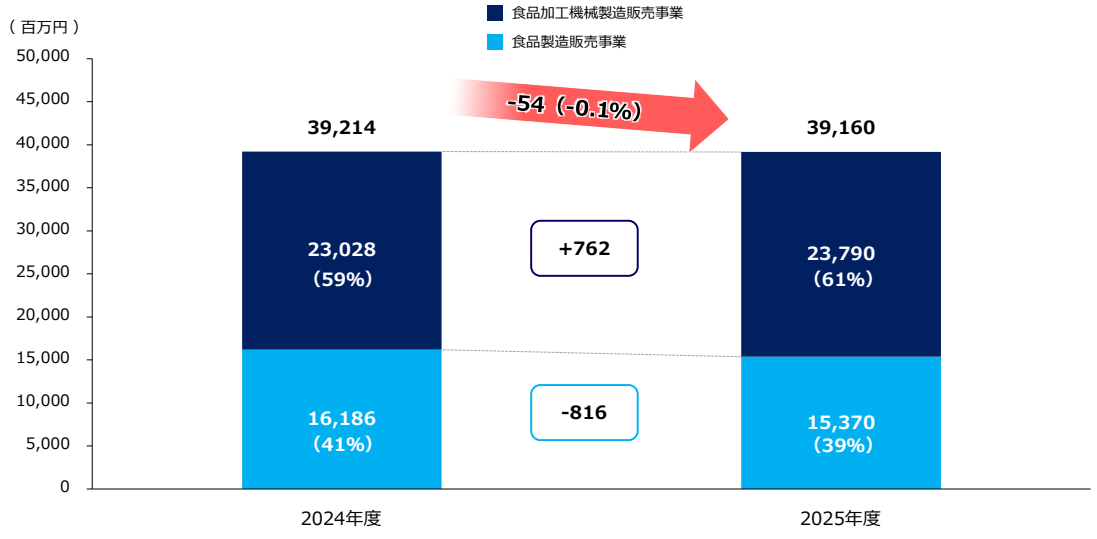
アメリカの関税政策の影響など、依然として不透明感が強く、

引き続き予断を許さない状況です。

なお、想定為替レートの設定は

ドルで１４０円、ユーロが１５８円としております。

◆ 2025年度 売上高の見通し



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

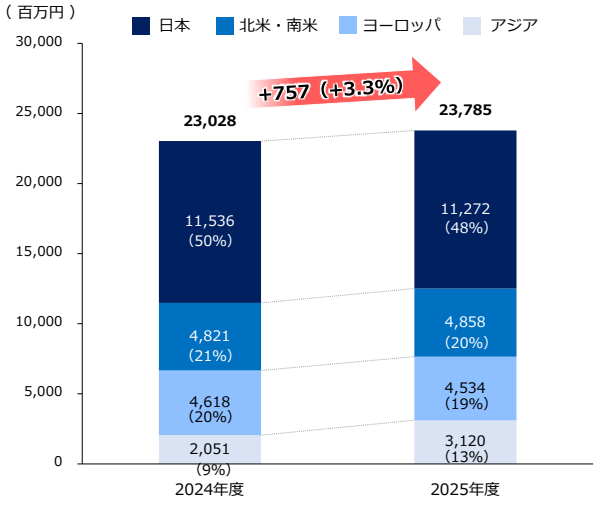
売上高予想の事業別内訳は、

「 **食品機械事業** 」が ７億６千万円の３．３％増収であり、

「 **食品事業** 」は ８億１千万円の５％減収を
予測しております。

◆ 事業別業績予想　食品加工機械製造販売事業

売上高予測



日本		● 大手顧客を中心に製パン・製菓設備の合理化、買い替え需要を見込む ● 包あん機は調理・冷食業界からの設備投資が今後も続くと予想 ● 国内全体においては前年度同等の売上を予想
北米・南米		● 関税政策の影響が見通しにくい状況ではあるが、人件費高騰や生産コスト削減に向けた設備投資の機運が継続し増収と予測 ● 製パンラインは、好調なアルチザンブレッド市場向けに自動化ライン、小型製パン機の販売活動を継続 ● 包あん機は、周辺機器とのセット販売を強化
ヨーロッパ		● 省人化対策の設備投資や買い替え需要の動きが戻ってきているものの、大型設備の投資に対する慎重な動きもあり、減収と予測 ● EU主要国以外への販路を拡げ、商品の差別化提案や自動化によるソリューション提案を継続 ● 食肉市場に食肉専用の新型包あん機を投入し、需要拡大を図る ● アフリカでの営業展開を強化し、有力見込み客を発掘する
アジア	中国	● 新型包あん機を投入し、月餅や中華菓子に加え、新市場開拓のための提案型活動を継続し売り上げ回復を図る
	東南アジア・オセアニア	● 大手顧客への接触強化や展示会の開催などを積極的に行い、見込み案件を増やす
	インド	● 製パン市場拡大の為に現地研究会の実施を継続し販売増加を目指す

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

「 **食品機械事業** 」の地域別の見通しについてご説明いたします。

国内市場では、

大手顧客を中心に製パン・製菓設備の合理化、買い替え需要なども
ありますが、前年度実績を若干下回る水準と予想しています。

アメリカ市場では、

好調なアルチザンブレッド市場向けに大型の自動化ラインの販売が
継続しております。関税政策の影響が見通しにくい状況ではありますが、
売上および利益に与える影響は軽微であると見込んでおります。

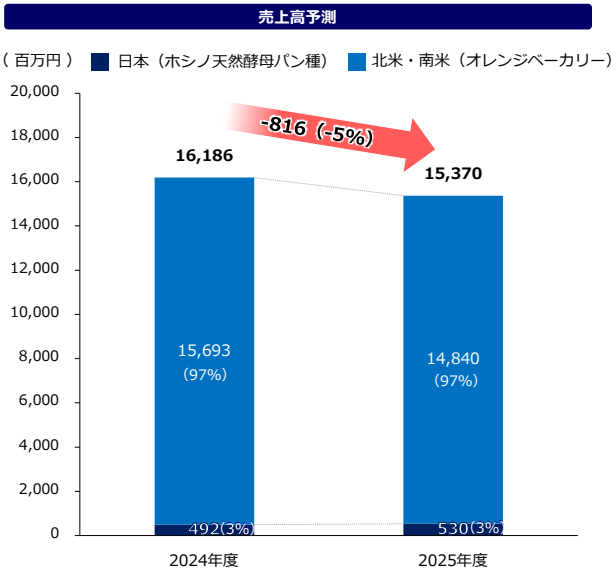
ヨーロッパ市場では、

省人化対策の設備投資や買い替え需要の動きが戻ってきており、
底堅い需要が継続する見込みですが、為替相場の影響があり、
円ベースの売上は減少する見込みです。

アジア市場では、

中国への新型包あん機の投入で月餅、中華菓子の市場回復が
見込めることや、東南アジアでの製パン自動化ラインの販売強化により、
売上増加と予測しています。

◆ 事業別業績予想　食品製造販売事業



北米・南米（オレンジベーカリー）

- 大型スーパーマーケットやレストラン向け商品の需要が順調と予測
- 省人化・省力化推進とコスト削減の継続

日本（ホシノ天然酵母パン種）

- パン小売市場の売上が回復すると予測
- 製品講習会や見込み客向け個別提案会の実施

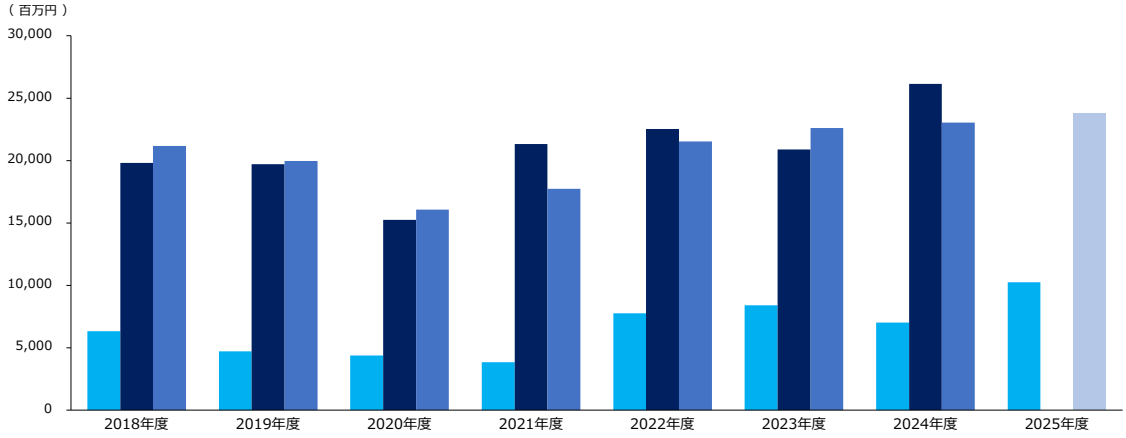
© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

次に、「 **食品事業** 」の見通しです。

アメリカのオレンジベーカリーでは、
大型スーパーマーケットやレストラン向け商品の需要が
今後も順調に推移すると見込まれますので、
売上は現地通貨ベースで増収、ただし円ベースでは減収と
予測されます。

国内のホシノ天然酵母パン種につきましては、
見込み客への個別提案会や製品講習会などを積極的に実施し、
売上増加を図ってまいります。

◆ 食品加工機械製造販売事業　受注高・売上高・受注残の推移



	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
受注残	6,333	4,704	4,385	3,850	7,761	8,411	7,012	10,235
受注高	19,801	19,708	15,252	21,309	22,523	20,886	26,152	—
売上高	21,174	19,964	16,078	17,728	21,523	22,608	23,028	23,785

※受注残は4月1日時点

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

「 **食品機械事業** 」の

受注高・売上高・受注残の数値をグラフにしました。

2024 年度の売上高は過去５年で最高となりました。

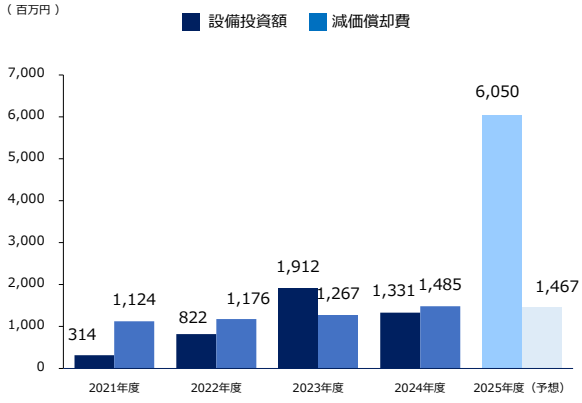
2025 年度の受注残高も堅調であり、今後も積極的に

受注活動を進めてまいります。

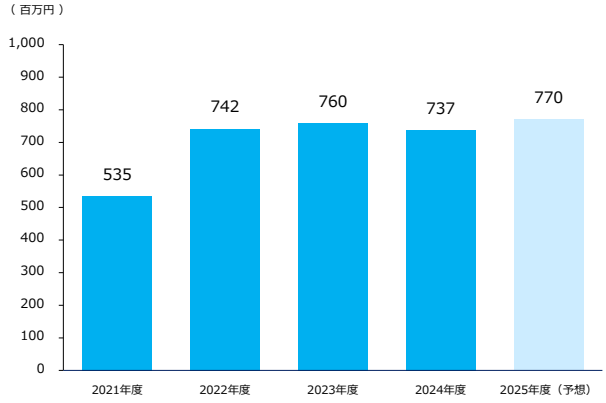
◆ 設備投資額・減価償却費・研究開発費

2024年度	設備投資の主なものは上河内工場向け自動工作機械更新やオレンジベーカリー向け生産設備更新など。
2025年度	上河内工場の自動倉庫（オートストア）設備やオレンジベーカリーの新工場建設を実施予定。

設備投資額・減価償却費



研究開発費



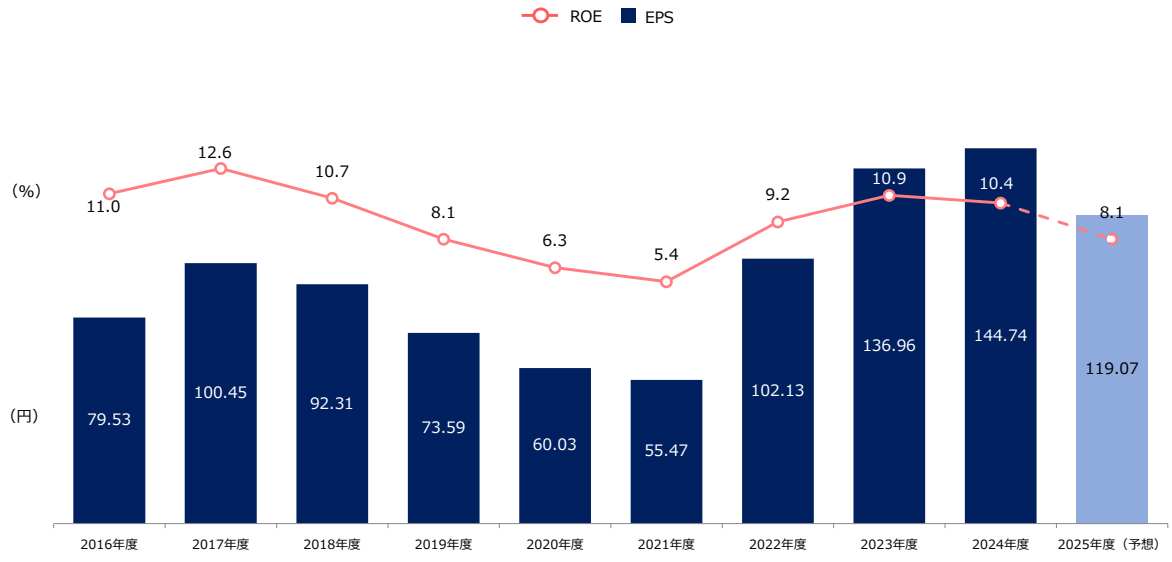
© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

2024 年度の設備投資の主なものは、
上河内工場における自動工作機械更新や、
オレンジベーカリー向け生産設備更新、
また、上河内工場と本社に導入した
自家消費型太陽光発電設備などでありました。

2025 年度は、上河内工場の自動倉庫設備や
オレンジベーカリーの新工場計画を中心に、
グループ全体で ６０億５千万円を見込んでいます。

また、減価償却費は、１４億６千万円、
研究開発費につきましては、７億７千万円を
見込んでいます。

◆ ROE・EPSの推移



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

ＲＯＥ および ＥＰＳの推移を示したグラフです。

ＲＯＥは、

2024 年度は、 １０．４％ に対して

2025 年度は、 ８．１％ を予想しております。

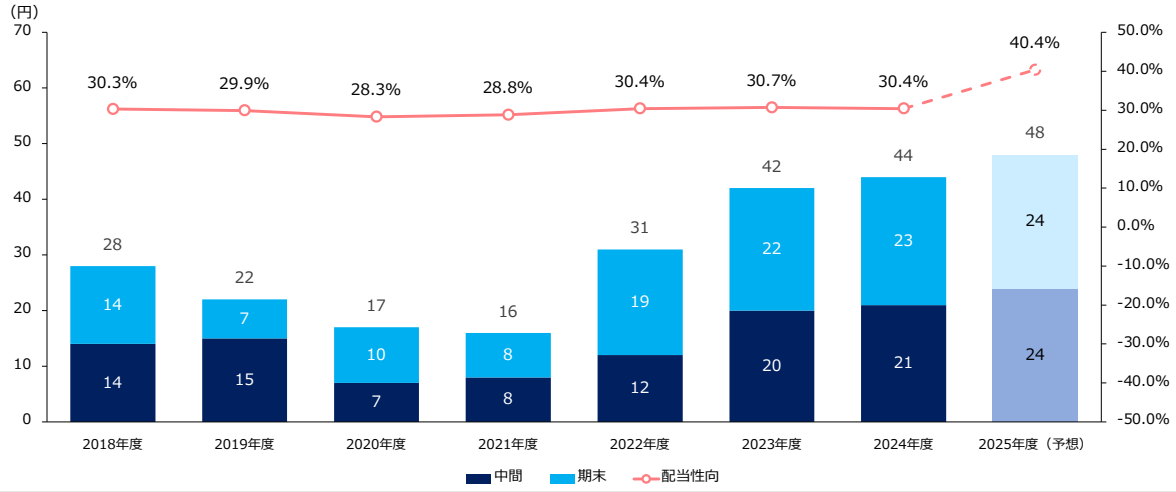
ＥＰＳも、

2024 年度は、 １４４円 ７４銭 に対して

2025 年度は、 １１９円 ７銭 を予想しています。

◆ 配当方針

- 今中期経営計画期間中（2026年3月期から2028年3月期）の連結配当性向の目標を40%以上とし、業績等を総合的に勘案し安定的な「累進配当」を行うことを基本方針とする。



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

次に配当方針ですが、
今期から配当方針を変更いたしました。
今（こん）中期経営計画期間中の
連結配当性向目標を４０％以上とし、安定配当を維持するために
「累進配当」を行ってまいります。
2025 年度は、４８円 の配当を予定しています。

◆ 目　次

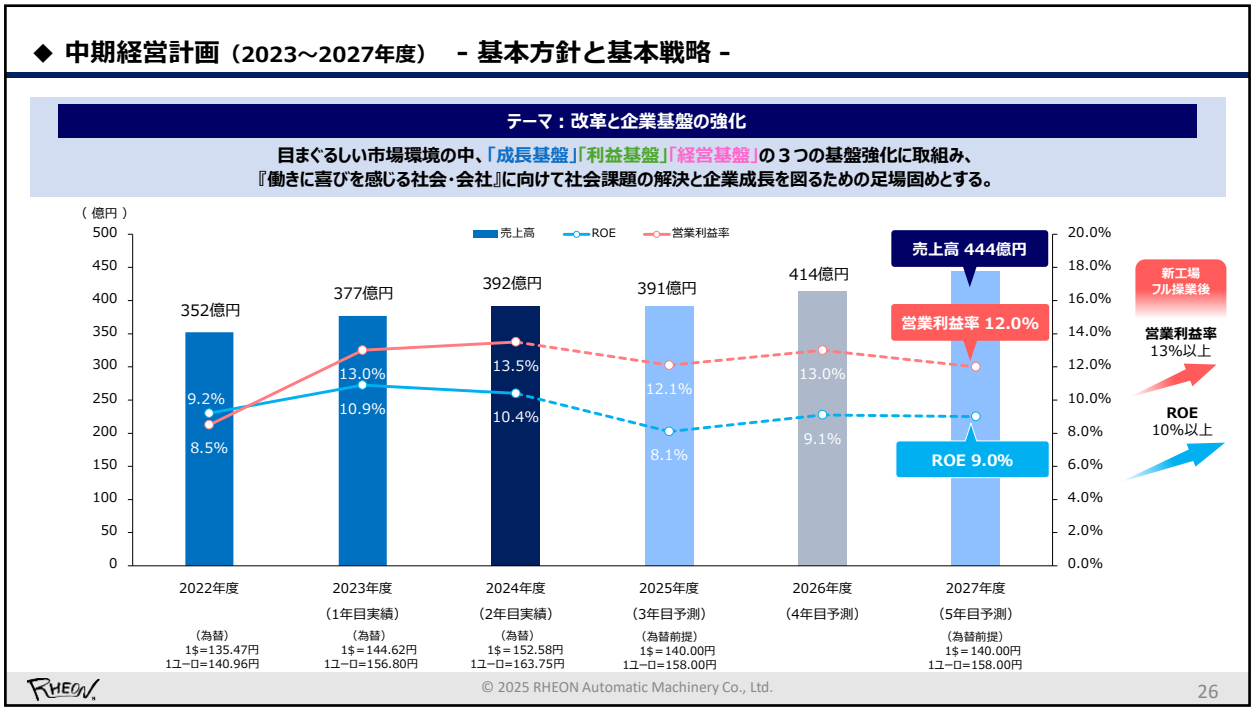
1.　2024年度 連結決算概況

2.　2025年度 連結業績予想

3.　中期経営計画　進捗状況
（2023-2027年度）

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

引き続き、中期経営計画の進捗状況のご説明をさせていただきます。



５か年中期経営計画の２年目の実績は、先ほど説明しました通り
円安による影響もあり、
「売上高３９２億円」「営業利益率１３．５％」
「ＲＯＥ１０．４％」となりました。
３年目は、円高を想定し、
「売上高３９１億円」「営業利益率１２．１％」
「ＲＯＥ８．１％」を予測しております。

なお、今回、今年度の想定為替レートを基に、
５か年中期経営計画の目標値を変更しました。
売上高は４４４億円に修正しました。オレンジベーカリー新工場計画を
織り込んで、営業利益率は１２％、ＲＯＥは９％にいたしました。
工場操業開始年を遅らせたことから、次期中期経営計画期間中に
これまでの目標値を達成すべく進めてまいりますが、詳細につきましては、
明らかになり次第公表いたします。

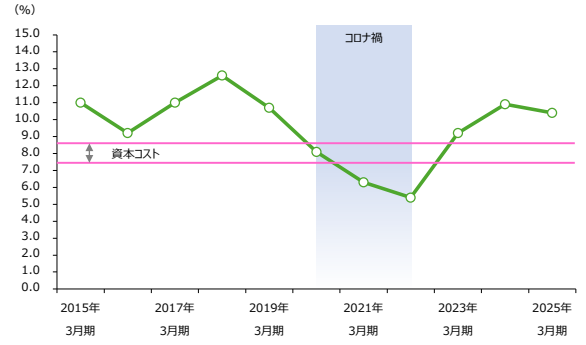
◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - 資本収益・資本コスト・株価を見据えた現状分析 -

- ROEは、コロナ禍から脱し経済が回復することで日米欧の食品加工機械製造販売事業や米国の食品製造販売事業が好調を維持し、資本コストを上回る状況である。
- PBRを１倍超に戻すためには、現状以上の企業価値向上や、株主還元の強化により、「ROE向上」と「資本コスト低減」を実施していく。

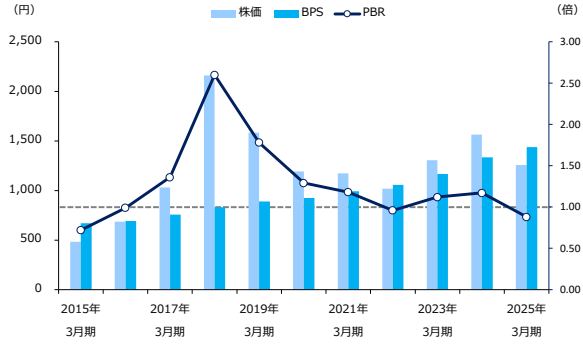
資本コスト	7.5～8.5%（CAPMで計算）
ROEの過去５年平均	8.4%（直近：10.4%）
PBRの過去５年平均	1.06倍（直近：0.88倍）

対話を通じて非財務情報の重要性を高め、資本コストの低減を図る
2027年度のROEは新工場建設により9.0%に低下する見込み
収益力向上や成長投資による事業拡大を進め株主価値を高める

ROEの推移



PBRの推移

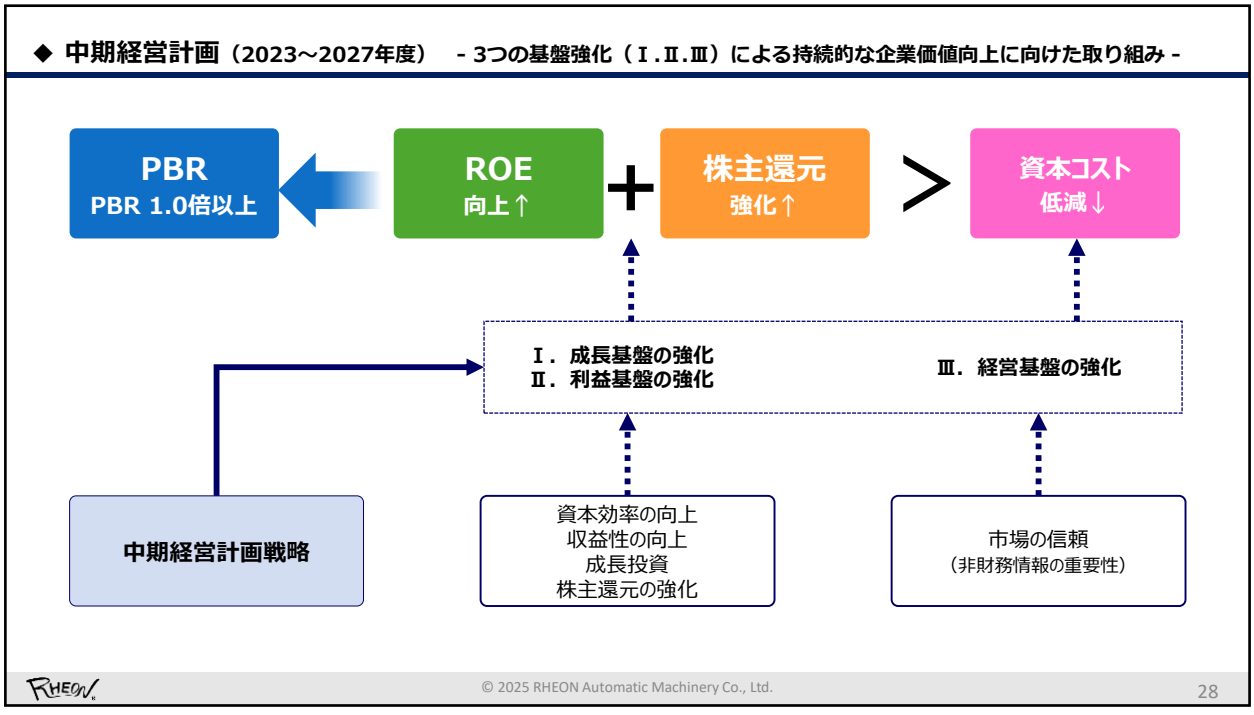


© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

ここで、「資本収益」や「資本コスト」および「株価」を見据えた状況を説明いたします。

当社の資本コストの範囲は、７．５％～８．５％に修正しました。
コロナ禍でＲＯＥが資本コストを下回ることがありましたが、過去１０年間において、概ね資本コストを上回る状況であります。

ＰＢＲにおいては、
ここ数か月、１倍割れが続いておりますが、収益力向上や
事業拡大に向けた積極的な成長投資の検討を行い、また、
株主還元の強化に取り組み、ＰＢＲ１倍越えとなるよう進めてまいります。



具体的には、現状以上の企業価値向上を目指すために、
中長期的な目線で「ＲＯＥ向上」と「資本コスト低減」
を推進することが必要と考えております。

その為に、中期経営計画の戦略である「成長基盤」や
「利益基盤」の強化を進めることで「ＲＯＥの向上」を図り、
「経営基盤」の強化を進めることで、
「資本コストの低減」を図ってまいります。
足元ＰＢＲが１倍割れとなっていることから、成長戦略に加
えて、「株主還元の強化」にも取り組んでまいります。

◆ 中期経営計画（2023～2027年度）- Ⅰ.成長基盤の強化：取り巻いている経営環境を事業機会として捉える -

食品加工機械製造販売事業：新機種開発、海外市場の拡大、国内の新たな市場の進出	
2024年度	●ペストリーラインの完成とスマートファクトリーに向けた開発を推進
	●海外代理店の充実を目指し、海外販路を拡大（食肉・冷凍マーケットへの参入強化）
	●インド・アフリカ・中東の市場開拓
	●国内の新規大手顧客（菓子卸・大手小売、調理冷凍食品等）へのアプローチ
2025年度	●2024年度を継続しペストリーラインの完成とスマートファクトリーに向けた開発を推進
	●中国市場に新型KN700火星人を、ヨーロッパ市場に食肉用新型包あん機を投入し、市場拡大
	●引き続き、インド・アフリカ・中東の市場開拓
	●国内の新規大手顧客（菓子卸・大手小売、調理冷凍食品等）へのアプローチを継続

食品製造販売事業：オレンジベーカリーの拡大と開発技術の情報提供	
2024年度	●スマートラインやクロワッサンベンダー開発のデータ提供
	●増産計画の検討
2025年度	●引き続きスマートラインやクロワッサンベンダー開発のデータ提供
	●オレンジベーカリー新工場の検討

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

「 成長基盤の強化 」では、「 食品機械事業 」において
欧米市場拡販を目指す「新型ペストリーライン」や
「スマートファクトリーに向けた」研究開発を
2025年度も継続してまいります。

「 食品事業 」では、米国の子会社である
オレンジベーカリー新工場の投資計画について具体的な
検討を進めてまいります。

◆ 中期経営計画（2023～2027年度）- Ⅱ.利益基盤の強化：収益に左右されない利益基盤の構築 -

開発によるコスト削減	
2024年度	● 設計の標準化　→　ラインデザイン、共通部品、操作性の統一、シンプルな構造（設計）
	● 電気系統の標準化　→　標準配線図、タッチパネル標準化、予防保全プログラム
2025年度	● 設計の標準化　→　販売実績のある製菓・製パンラインの標準化
	● 電気系統の標準化　→　引き続き標準配線図、タッチパネル標準化、予防保全プログラム

生産性向上	
2024年度	● システム：PLMシステムと連携する「MESシステム（生産管理システム）」稼働
	● 生産設備投資 工作：レーザー複合機、仕上げロボット、大型自動ベンダー 組立：実績収集MESシステム（進捗の可視化） 物流：自動倉庫（オートストア）の導入検討 (生産効率UP、ヒューマンエラー撲滅、環境改善)
2025年度	● システム：MESシステムにおける実際原価可視化の稼働 ● 受注負荷状況の全社見える化
	● 生産設備投資 工作：DNCラインの更新、組立現場にAGVの導入 物流：自動倉庫（オートストア）の導入・稼働

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

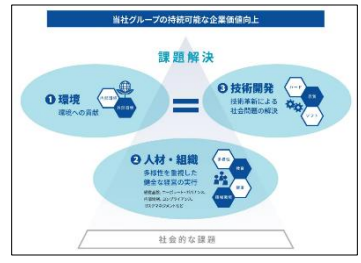
「 利益基盤の強化 」では、設計の標準化を進めて
コスト削減を図ります。
生産性向上としましては、
受注負荷状況の全社見える化および
ＭＥＳ（ｴﾑｲｰｴｽ）システムにおける原価システムを稼働させ、
納期短縮とコスト削減を図ります。

◆ 中期経営計画（2023～2027年度）- Ⅲ.経営基盤の強化：健全経営を確立していく-

- **ステークホルダーとの対話**を通して、当社の**「サステナビリティの３つの重点課題（環境、人材･組織、技術）解決」**と**「５つの経営基盤の強化」**が、社会課題を解決する責務と健全経営の確立に必要と考えています。

資本コスト低減

ステークホルダーエンゲージメントの向上



ガバナンス強化
- ガバナンス
- 情報開示
- リスク管理
- コンプライアンス

環境改善
- CO_2排出量削減
- 自家消費型太陽光設置
- 工場エネルギー環境整備
- 食品ロス削減

人材育成
- グローバル人材育成
- 女性活躍推進
- 技術の継承と育成
- 次期経営者育成

DX推進
- ERPを基軸としたCRM、PLM、MES等の統合プラットフォームの構築と業務改革推進

品質管理
- 品質管理徹底
- 問題が生じた場合の徹底した原因究明と迅速な対応

※ ERP（企業資産計画）、CRM（顧客管理）、PLM（製品ライフサイクル管理）、MES（製造管理）

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

資本コストを低減する対策としては、
ステークホルダーとの対話を通して、
当社の「サステナビリティの３つの重点課題解決」と
「５つの経営基盤の強化」が、
社会課題を解決する責務と健全経営の確立に必要と
考えています。

◆ 中期経営計画（2023～2027年度）- Ⅲ.経営基盤の強化：環境改善・人材育成 -

温室効果ガス（CO_2排出量）削減	
2024年度	● 2014年対比、82%削減（2030年80%削減目標）　※Scope1、2 （6事業所を非化石燃料に切り替え）
2025年度	● 2014年対比、83%削減予定　※Scope1、2

エネルギーマネジメント（消費電力削減）	
2024年度	● 上河内工場（第1・2・4工場）にてLEDおよび省エネタイプ空調機更新
	● 本社に自家消費型太陽光発電設備設置
2025年度	● 上河内工場（第4工場）にてLEDおよび省エネタイプ空調機更新
	● 営業所に自家消費型太陽光発電設備設置の検討

人材育成	
2024年度	● グローバル人材育成：入社2年目の社員を中心に海外子会社での長期研修（12名）
	● 女性活躍推進
2025年度	● グローバル人材育成の継続：入社2年目の社員を中心に海外子会社での長期研修（9名）
	● 社員教育：外部講師による講習やeラーニングによる育成支援

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

「環境と人材」に関して表にまとめてみました。
「環境」に関しては、国内の2014年度を基準として
2030年度までにスコープ１・２の温室効果ガス８０％削減を
掲げております。2024年度は８２％削減をし、
今年度は８３％削減の目標を達成する予定であります。
今後は、スコープ３へ範囲を広げるべく検討をして
まいります。
また、「人材」に関しては、グローバル人材の育成及び
社員一人ひとりの能力向上のための研修を実施しております。

◆ 中期経営計画（2023～2027年度）- 投資戦略 -

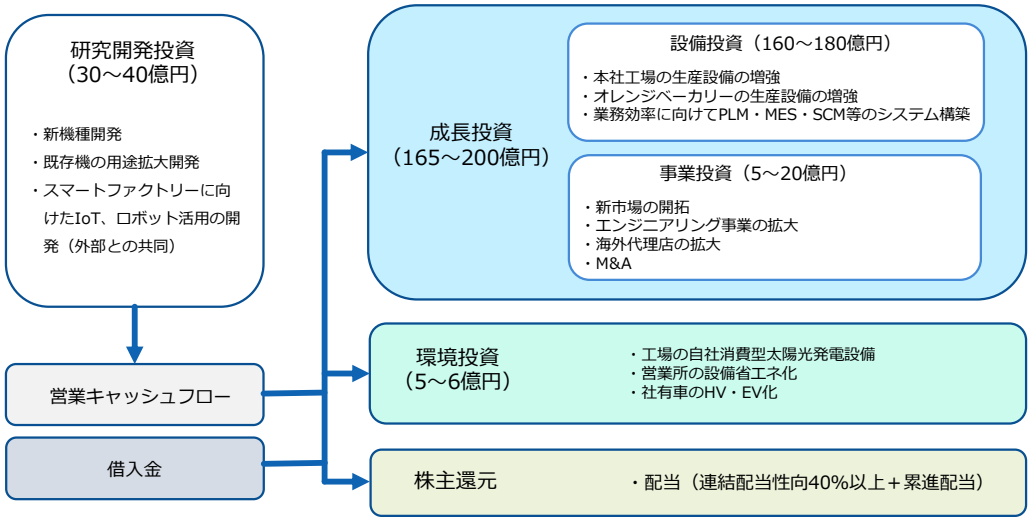
研究開発投資	設備投資	環境投資
2024年度 実績	2024年度 実績	2024年度 実績
7億3千万円	13億3千万円	1億3千万円
	● 自動工作機械更新（上河内工場） ● オレンジベーカリー生産設備更新	● 自家消費型太陽光発電設備（上河内工場・本社）
2025年度 予想	2025年度 予想	2025年度 予想
7億7千万円	60億円	1億円
	● オレンジベーカリー新工場計画（確定分のみ） ● 自動倉庫（オートストア）設備（上河内工場）	● 上河内工場（第4工場）にてLEDおよび省エネタイプ空調機更新 ● 営業所に自家消費型太陽光発電設置の検討

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

投資戦略に関しまして、2024年度は、
「 食品機械事業 」においては主に生産体制の強化を
図りました。
また、「 食品事業 」ではオレンジベーカリーの
生産体制の強化に努めてまいりました。
その結果、「研究開発投資」に７億３千万円、
「設備投資」に１３億３千万円、
「環境投資」に１億３千万円を投資しました。

今年度の設備投資に関しては、主にオレンジベーカリーは
新工場の確定分を計上しています。

◆ **中期経営計画（2023～2027年度）- 投資戦略 -**



© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

今（こん）中期経営計画期間における投資計画を
まとめてみました。
成長投資に２００億円、環境投資に６億円を計画しています。

今後もオレンジベーカリーへの投資を通じて新機種の開発や、
スマートファクトリーを目指した開発に取り組んでいきます。

当社独自のハード・ソフトを開発していくことで、収益力を
高め、研究開発をより強化していくことで
企業価値・株主価値の増大を目指してまいります。

◆ レオングループのアイデンティティ

社　是

“ 存在理由のある企業たらん ”

- 自社製品を通じてお客様に満足を提供する
- 世界の食文化に貢献する

「存在理由のある企業たらん」は、
レオングループが創業以来持ち続けている社是です。
これまでも、これからも、存在理由のある企業であり続けることが
レオングループの大切にしていることです。

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

最後になりますが、当社の理念は、
独自技術に基づく自社製品を通じて、食品業界のお役に立ち、
また世界の食文化に貢献することであり、
これが、当社の存在理由でもあります。

近年、食を取り巻く環境は大きく変化し、
食品業界では、食の安心・安全の確保をはじめ、
食品ロスなど多様化する課題に直面しております。
レオン自動機は、こうした　お客様の課題解決に、
ともに取り組むパートナーとして、
永続的に「存在理由のある企業」であり続けるため、
社員一人ひとりが変革に挑戦してまいります。

《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、
当社の創業者（名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的リスクや不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

引き続き、皆様のご支援を賜りますよう、

今後とも、よろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

参 考 資 料

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

（参考資料）ステークホルダー・エンゲージメント

【ステークホルダー・エンゲージメント基本方針】

- **当社は、社会に貢献する企業であり続けるために、日常的な様々なしくみを通じてステークホルダーの皆様との対話を尊重し、共創を積み重ねることで、企業価値向上につながるステークホルダー・エンゲージメントを目指します。**

ステークホルダー	取　組　み
● お客様	日常の営業活動・修理訪問時の対話、展示会・講習会・来客テスト、WEBサイト・機関誌（つつむ）
● 従業員	日々の対話・個人面談、グループ会議・営業会議・部署長連絡会議、安全衛生委員会、文化体育委員会、社内報、社内通報制度、研修制度、労働組合との対話
● 株主（投資家）	株主総会・IR説明会・IR個別ミーティング、WEBサイト・株主通信・機関誌、会社見学会
● 取引業者	日常の調達活動・品質検査（監査）、全体会合（親交会）、日常の情報交換、セミナー、社外通報制度（HP）
● 代理店（協力会社）	展示会・講習会、全体会合、日常の情報交換
● 地域社会	地域貢献活動、会社見学会（学校等）
● 他の企業、業界、大学	共同研究会・情報交換会、各種団体での対話（活動）、共同開発

© 2025 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.